

## 隠岐諸島新産の植物 (5)

海士町 丹後 亜興

### ハマボウ *Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.

2011.11.22, 知夫村島津島で発見。「隠岐では初めて」というようなレベルのものではない。南国の海辺の花で、奄美大島を南限とし九州・四国を経て、本州の太平洋側を千葉県房総半島まで北上する。本州の日本海側では山口県(萩市)だけに知られている。北限自生地は神奈川県三浦半島(天神島)とされ、県指定の天然記念物になっている。知夫村はそれよりもはるかに北(約90km)で、この植物の北限を書換えたことになる。

海岸の満潮時の汀線付近, 真水の浸み出すような砂泥地, という極めて特殊な環境に生える落葉低木である。自生場所が局限され個体数も少ない種で、ほとんどの県で絶滅危惧種に指定されている。知夫の場合も少し時化ると波に洗われるような場所で、樹高3mを越えるもの1本と1m弱の幼木3本を確認した。

やはり隠岐では知夫にしか知られていないホソバワダン *Crepidiastrum lanceolatum* を捜しに出かけた時のことだが、人の行かない東側海岸にまわったのが幸いした。神社や海水浴場のある側に生えたら、とっくに消滅していたに違いない。誰にも知られることなく。

写真は秋の紅葉であるが、真夏に黄色い大きな花が咲く。学名から分るように、ハワイでレイにされるハイビスカスと同属である。色々個性の強い木なので花の時期ではなくても、「見た事のないものだ」と誰でも気付くであろう。筆者も「あり得ない、嘘だろう!」と、いきなりその場に座り込んでしまった。あまりに唐突な出会いだったので、「人為的に持込まれたものではないか?」という心配が先に来た。しかし、①離れ島のそれも人の行かない渚に木を植える人はいない。②種子は



海流散布に適応していて、動物(人・野鳥を含む)によって広がる可能性はない。③隠岐では見たことも聞いたこともないし、対岸の薄毛地区にも植っていないので、逃出したものではない。④そもそも繁殖力が弱く(だからこそ絶滅危惧)、減る一方の植物。対馬海流が島津島に運び、定着しているのだと確信する。